

社会福学科 社会福祉専攻 1年 後期 総合科目

1. 富山コミュニティー論
2. 生涯スポーツ実技
3. 日本語表現技法
4. コミュニケーション論

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 富山コミュニティー論			担当教員 氏名: 学科・専攻AD						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	1年次	後期	総合科目	演習	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 各ADの実務経験を活かして、学生が地域の福祉的課題に実践的に取り組めるよう指導・助言を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
主体的に地域の課題を学び、その解決のために必要な目標を設定し、具体的に「ひと・こと・もの」(地域社会)に関わる行動に移し、自身を「つくり、つくりかえ、つくる」実践力を高める。						教育目標「つくり、つくりかえ、つくる」、 『私』宣言、地域社会に生きる「私」、実践躬行			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 7. 8. 10				
D 問題解決力			問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる。						
E 自己管理能力			地域社会の「ひと、こと、もの」に働きかけ自己を律して行動できる。						
G 倫理観			自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。						
F チームワーク・リーダーシップ			【市民としての社会的責任】義務と権利を適正に行使しつつ、地域社会に生きる「私」になる						
C 論理的思考力			【生涯学習力】自ら設定した目標(『私』宣言)に対して、それを行動に移し、「つくり、つくりかえ、つくる」の実践力を持つ。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	30 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	40 %
特記事項: その他については、授業への積極的な取り組みとグループへの貢献度によって評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回、ADが計画と実施の報告を受け、指導する。									
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)			
						学習内容	学習に必要な時間(分)		
①【各学科】学修の進め方、地域調査の基本について。地域社会に生きる「私」をつくる						【予習】シラバスの確認	【予習】30分		
②【AD】各グループで地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成を立てる①						【予習】計画書の作り方を調べる	【予習】30分		
③【AD】各グループで地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成を立てる②									
④【AD】各グループで地域課題テーマの設定、情報収集、調査計画の作成を立てる②									
⑤【AD】連携機関との打合せ						【予習】計画書の確認	【予習】60分		
⑥【AD】調査計画の修正									
⑦【AD】地域課題のフィールドワーク①						【予習】計画書の確認と実体験にむけて	【予習】60分		
⑧【AD】地域課題のフィールドワーク②									
⑨【AD】地域課題のフィールドワーク③									
⑩【AD】地域課題のフィールドワーク④									
⑪【AD】地域課題の解決策の検討						【予習】ノートの整理	【予習】60分		
⑫【中村】ボランティア活動を通しての「私」の育ち(ボランティア活動発表)※1						【予習】発表準備	【予習】60分		
⑬【AD】学習成果のまとめ①						【予習】報告書の書き方を調べる	【予習】60分		
⑭【AD】学習成果のまとめ②						【予習】報告書の書き方を調べる			
⑮【全学科】学習成果報告会 1月26日 Uホール						【予習】発表準備 【復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分		
使用テキスト: 特にありません。						その他参考文献など: 佐藤郁哉: フィールドワークの技法-問を育てる、仮説をきたえる。 社会学やさまざまな領域の文献を探求的に探し参考にしてほしい。			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ※1. ボランティア報告会の日時は学科専攻の担当教員からお知らせがあります。 ・「地域つくりかえ学」で学んだことに基づいて地域課題に主体的に実践的に取り組む。積極的な「つくり、つくりかえ、つくる」を目指す。									

社会福祉学科

社会福祉 専攻

科目名: 生涯スポーツ実技			担当教員 氏名: 本田 由美子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	総合科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
実技を通して自分の身体とその健康について、理解を深めることを目標とする。課題解決に向けて、お互いにコミュニケーションをはかりながら、適切に解決する。					「向上心」「チームワーク」「コミュニケーション」	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 2. 5. 7. 8.			
A 知識・理解力			ゲームのルールを理解すること。			
D 問題解決力			チームやグループの編成等を行う際に、生じる課題に対応すること。			
F チームワーク・リーダーシップ			課題が生じたときに、他のメンバーとのコミュニケーションおよび調整をはかりながら、課題解決にあたること。チーム内・チーム間で協力すること。			
H コミュニケーション力						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: 70 %
その他: 30 %						
特記事項: 「成績評価の方法」欄、「その他: 30%」の部分では、授業中の参加姿勢や努力を評価する。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学習 ディスカッション ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実技テストは実技種目の区切りで適宜実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実技テスト後、さらなる技能向上について話をする。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①授業ガイダンス				【予習①～⑮】運動習慣の確立	【予習】60分	
②ビーチボールバレー(個人技能)				【予習】ビーチボールバレーの歴史・特性について調べる	【予習】60分	
③ビーチボールバレー(集団技能)				【予習】ビーチボールバレーのルールを調べる	【予習】60分	
④ビーチボールバレー(ゲーム・評価)				【予習】作戦を立てる	【予習】60分	
⑤バドミントン(個人技能)				【予習】バドミンソンの歴史・特性について調べる	【予習】60分	
⑥バドミントン(シングルスゲーム)				【予習】バドミンソンのルールを調べる(シングルス)	【予習】60分	
⑦バドミントン(ダブルスゲーム)				【予習】バドミンソンのルールを調べる(ダブルス)	【予習】60分	
⑧バドミントン(団体戦・評価) ※中間報告				【予習】作戦を立てる	【予習】60分	
⑨卓球(個人技能)				【予習】卓球の歴史・特性について調べる	【予習】60分	
⑩卓球(シングルスゲーム)				【予習】卓球のルールを調べる	【予習】60分	
⑪卓球(ダブルスゲーム・評価)				【予習】作戦を立てる	【予習】60分	
⑫フレッシュテニス(個人技能)				【予習】フレッシュテニスの歴史・特性について調べる	【予習】60分	
⑬フレッシュテニス(ダブルスゲーム)				【予習】フレッシュテニスのルールを調べる	【予習】60分	
⑭フレッシュテニス(団体戦・評価)				【予習】作戦を立てる	【予習】60分	
⑮まとめ				【予習】ルールを復習する	【予習】60分	
使用テキスト: テキストは使用しません。				その他参考文献など: 観るまえに読む大修館スポーツルール2016 大修館書店編集部 編		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ※授業の進行状況を見て、各回で扱う実技の内容を変更する場合があります。 ①トレーニングウェアに必ず着替えること。②室内用シューズに履き替えること。③各自体調管理に留意すること。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻			
科目名: 日本語表現技法			担当教員 氏名: 山本 裕世			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次	後期	総合科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
日本語を表現することは、自己表現することである。したがって、文章や会話を通して、自己の在りようが現れることから、適切に伝えるための日本語表現の基礎基本を学ぶとともに、他者との関係を豊かにする自己表現の基礎を養う。					国語力の基礎 話す力 聴く力 書く力	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 7.	
A 知識・理解力			日本語の正しい使い方を身につける。			
C 論理的思考力			言葉を客観的に理解し、正しく判断する。			
D 問題解決力			問題点を的確につかみ、問題点の情報を収集し、集めた情報を正しく分析する。			
G 倫理観			自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる力を養う。			
H コミュニケーション力			言葉やジェスチャーを用いて、お互いの意思の伝達を図る。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: 10 %	実技試験: %	その他: 10 %
特記事項: 上記「その他10%」では、授業態度、授業への積極性、授業中の課題の提出状況等等で評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テストレポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート、小テストを適宜取り入れる。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 前期・後期それぞれに小テストを行い、採点返却の上、習熟度を再確認する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①アカデミックワードと日常語					【予習】60分 【復習】90分	
②仮名遣い・送り仮名・現代表記					【予習】60分 【復習】90分	
③句読点・記号の使い方・見やすい表記の仕方				ノート、プリントの見直し	【予習】60分 【復習】90分	
④あいまいな文・文のねじれ				ノート、プリントの見直し。	【予習】60分 【復習】90分	
⑤長い文を分ける・接続表現の使い方				接続詞について調べておく。ノート、プリントの見直し。	【予習】60分 【復習】90分	
⑥分かりやすい語順・結論を先に述べる				指定する資料を読んでおく。ノート、プリントの見直し。	【予習】60分 【復習】90分	
⑦事実か意見か・文末に注意する				指定する資料を読んでおく。ノート、プリントの見直し。	【予習】60分 【復習】90分	
⑧データの解釈 (①～⑧迄の内容の小テスト)				①～⑧迄の復習。	【予習】120 【復習】90分	
⑨敬語の使い方				敬語について調べておく。ノート、プリントの見直し。	【予習】60分 【復習】90分	
⑩作成力(通信文)				ノート、プリントの見直し。	【予習】60分 【復習】120	
⑪作成力(表現)				ノート、プリントの見直し。	【予習】60分 【復習】120	
⑫作成力(意見文)①				ノート、プリントの見直し。	【予習】60分 【復習】120	
⑬作成力(意見文)②				ノート、プリントの見直し。	【予習】60分 【復習】120	
⑭レポート課題とレポートを書く順序				ノート、プリントの見直し。	【予習】60分 【復習】120	
⑮レポートの内容 (⑨～⑮迄の内容の小テスト)				⑨～⑮迄の復習。	【予習】120 【復習】90分	
使用テキスト: 必要に応じてプリントを配布する。				その他参考文献など: 「読むだけ小論文」樋口裕一 「(型)で書く文章論」西田みどり		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 国語表現力は、全ての教科の基礎となります。予習・復習を行い、日本語力を身につけてください。						

社会福祉学科			社会福祉 専攻		
科目名: コミュニケーション論			担当教員 氏名: 経田 博子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	1年次 後期	総合科目	演習	選択	交流分析士2級受験資格
実務経験を用いてどのよ 交流分析士・TAカウンセラー・産業カウンセラーとしての経験を生かして、自分の思考・感情・行動の癖に うな授業を行っているか: 気づき、コミュニケーション時の選択肢を増やすこと等について教授する					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
コミュニケーション心理学ともいわれる交流分析を学ぶ。人の心の在り様と、思考・感情・行動について分析し、活用方法を学習と演習から学ぶ。また、自分と他者のコミュニケーションパターンを理解し、交流の改善方法について学ぶ。					交流分析・交流パターン・ストローク・傾聴 ・人生の立場・心理ゲーム・時間の構造化 ・人生脚本
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 3. 5. 10	
A 知識・理解力		交流分析の理論を理解し、ワークなどから自己理解を深める			
D 問題解決力		問題に気づき、いろいろな対処方法から「今ここで」必要な対応を理解する			
E 自己管理能力		自分の思考・感情・行動のパターンを理解し、自分の選択に責任を持つ			
F チームワーク・リーダーシップ		ワークショップ・グループワークを通じて、協調性や自分の役割を理解する			
H コミュニケーション力		交流分析の哲学を意識して、より良い人間関係を築く能力を養う			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 80 %	レポート: 10 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: ・上記「その他」においては、授業中の態度、授業中の課題提出・TAシートの書き込み状況などで評価する ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワーク、発表を行う					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 適宜小テストを行う。授業内で、グループワークの準備やまとめとしてのレポート提出を行う。最終試験は、別に定めた日時に実施する					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜小テスト、レポート課題を行い、採点し個人のものとは返却する。グループとしてのレポート提出においては、返却はしない。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①コミュニケーションとは 自己紹介 自我状態 ストローク			【予習】自我状態・ストロークを読む	60分	
②ストロークの活用 価値を認める 人生の立場			【予習】人生の立場を読む	予習30分 復習30分	
③いろいろな見方 人生の立場 自分の事例・グループワーク			【予習】TAシートP29記入	予習60分 復習30分	
④OK・OKの思考・感情・行動 人生の立場 ディスカウント 小テスト			【予習】人生の立場を読む	予習30分 復習30分	
⑤心理ゲームとは ゲームの公式			【予習】心理ゲームを読む	予習30分 復習30分	
⑥自分がついついしてしまうこと ゲームの図式 代表的なゲーム			【予習・復習】心理ゲームを読む	予習30分 復習30分	
⑦嫌な感情の減らし方 ゲームをやめるには・グループワーク 小テスト			【予習】TAシートP35記入	予習60分 復習30分	
⑧ラケット感情 ストレスと感情 グループワーク			【予習】心理ゲーム・ラケット感情を読む	予習30分 復習30分	
⑨時間の構造化			【予習】時間の構造化を読む	予習30分 復習30分	
⑩充実した時間の過ごし方 時間の構造化 小テスト			【予習】TAシートP37記入	予習30分 復習30分	
⑪自分の物語 人生脚本とは 幼いころに決めたこと			【予習】人生脚本とはを読む	予習30分 復習30分	
⑫自分の中にある禁止令 小テスト			【予習】禁止令を読む	予習30分 復習30分	
⑬拮抗禁止令とドライバー プログラム			【予習】ドライバーまでを読む	予習30分 復習30分	
⑭ミニスクリプト 自分を止めるもの 許しを与える			【予習】ミニスクリプトまで読む	予習30分 復習30分	
⑮自立に向けて 自分がなりたい自分			【予習】TAシートP45記入	予習30分 復習30分	
使用テキスト: 日本交流分析協会発行 交流分析士2級テキスト・シート・エゴグラム 使用 (前期の人間関係論と同じテキスト)			その他参考文献など: 交流分析入門(チーム医療)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 自分や自分の周りの人とより良い関わりができるように、自分を成長させていく貴重な時間です。テキストの理解と共にTAシートの記入など、自身を見直す時間を丁寧になさってください。 前期の「人間関係論」と後期の「コミュニケーション論」の両方で40時間以上受講した人には、2月ごろ実施のNPO法人日本交流分析協会認定「2級交流分析士」(登録商標)の受験資格が与えられます。					